

弁護士費用保険「メルシー」が好調

追加保険料なしで家族も補償対象に

カイラス少額短期保険

カイラス少額短期保険が販売する弁護士費用保険「メルシー」が単独型での弁護士費用保険の被保険者の範囲(保険契約者に加えて、一定の条件を満たす家族)の広さや保険金支払時の免責金額の設定がないことに反響を得て、発売直後から契約成立数と資料請求数が右肩上がり伸びている。開発背景や商品内容について詳細を聞いた。

現代では社会生活の中で、リスクが多様化し、その中でも近年はさまざまなトラブルが法的トラブルに発展するケースが増加している。法的トラブルへの対処・解決には法律の専門家である弁護士に相談・委任する必要があるが、その費用が高額に上るため、弁護士に

60分無料相談できる弁護士を紹介

同社が弁護士費用保険を開発した最大の動機は、「一般的に『近寄りたくない存在』である弁護士との垣根を取り除くとともに、費用負担を軽減し、法的トラブルに遭遇した際に誰もが身近に気軽に弁護士に相談や解決を委任できるようにしたい」ということにある。同保険の保険料は月額

2500円、通算支払限度額1000万円、追加保険料0円で家族も補償し、例えば、「いじめ問題」「労働トラブル」「ネットの誹謗中傷」「自転車事故」「近隣トラブル」「相続トラブル」などの法的トラブルに対応する。

同商品の特長は、第一に、法的トラブルに遭遇した時に、家族の案件であっても、その世帯主が矢面に立つことから、保

険契約者だけでなく、保険契約者の配偶者、保険契約者の血縁である65歳以上の親、保険契約者の30歳未満の未婚の实质子を

顧客からは「御社ともう一社に資料請求をして比較していたが、追加保険料0円で家族も補償対象となる点、一般事故であっても、着手金と報酬金の両方が補償対象となる点、保険料が割安だった点の三つが決め手とな

り、御社へ加入することにした」といった声が寄せられている。同社は「今後、当保険を社会に普及させるため『ネット販売による方式』と『お客さまとの対面型で営業する代理店方式』の両輪で営業展開していく。ネット型はコロナ禍においても体制整備を構築できたが、代理店型は残念ながら体制整備が遅れているため構築が急務だ。とりわけ、お客さまのリスク回避を総合的に提案できる営業体制が不可欠だ」と語る。

また、「現在の商品は個人のお客さまを対象にしているが、今後は、事業を営む個人事業主や中小企業経営者向けの商品開発が必要になる。その段階で、弁護士費用保険

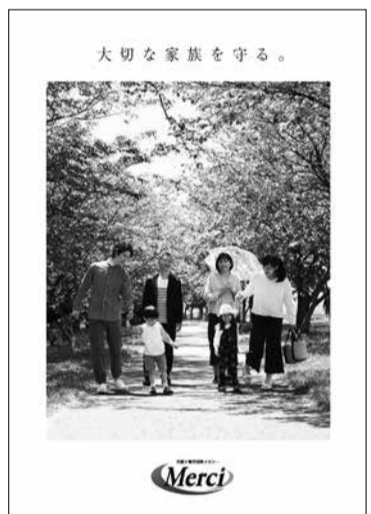
る。第二に、弁護士費用の主たる費用である「着手金・報酬金」に関して、支払事由の対象となる事案であれば、手厚く補償すること。第三に、法的トラブルに遭遇した時に、家族の案件であっても、その世帯主が矢面に立つことから、保

険契約者だけでなく、保険契約者の配偶者、保険契約者の血縁である65歳以上の親、保険契約者の30歳未満の未婚の实质子を

顧客からは「御社ともう一社に資料請求をして比較していたが、追加保険料0円で家族も補償対象となる点、一般事故であっても、着手金と報酬金の両方が補償対象となる点、保険料が割安だった点の三つが決め手とな

り、御社へ加入することにした」といった声が寄せられている。同社は「今後、当保険を社会に普及させるため『ネット販売による方式』と『お客さまとの対面型で営業する代理店方式』の両輪で営業展開していく。ネット型はコロナ禍においても体制整備を構築できたが、代理店型は残念ながら体制整備が遅れているため構築が急務だ。とりわけ、お客

その構築を粘り強く推進していきたい」としている。



「メルシー」のパンフレット